

平成 18 年 7 月 10 日

各 位

会 社 名 ケネディクス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 本 間 良 輔
(コード番号 4321 東証1部)
問 い 合 せ 先 取締役兼執行役員CFO 吉 川 泰 司
電 話 番 号 (03) 3519-2530

平成 18 年 12 月期中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 18 年 2 月 14 日の決算発表時に公表した平成 18 年 12 月期 (平成 18 年 1 月 1 日 ~ 平成 18 年 12 月 31 日) の中間期及び通期業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 中間期の業績予想の修正 (平成 18 年 1 月 1 日 ~ 平成 18 年 6 月 30 日)

(1) 連結

(単位: 百万円)

	営業収益	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (A)	7,900	5,400	3,100
今 回 修 正 (B)	16,100	11,900	6,800
増 減 額 (B - A)	8,200	6,500	3,700
増 減 率 (%)	103.8	120.4	119.4

ご参考: 前中間期の実績 (平成 17 年 1 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

前中間期の実績 (A)	5,517	2,916	1,720
---------------	-------	-------	-------

(2) 単体

(単位: 百万円)

	営業収益	経常利益	中間純利益
前 回 予 想 (A)	5,960	4,880	3,100
今 回 修 正 (B)	12,000	10,200	6,200
増 減 額 (B - A)	6,040	5,320	3,100
増 減 率 (%)	101.3	109.0	100.0

ご参考: 前中間期の実績 (平成 17 年 1 月 1 日 ~ 平成 17 年 6 月 30 日)

前中間期の実績 (A)	3,674	2,630	1,847
---------------	-------	-------	-------

2. 修正の理由

当中間期においては、当社グループが運用するケネディクス不動産投資法人と日本ロジスティクスファンド投資法人の公募増資及び物件組入れに伴うものを中心に、期初時点では下期の実現を予想していた自己勘定物件の売却益の前倒し計上も含め、計画以上のキャピタルゲインが計上されました。

また、上記2つの投資法人へ物件を売却した私募ファンドからの成功報酬であるインセンティブフィーが計上されたこともあり、期初時点で見込んでいた当期案件の収益計上が、当中間期に集中したことから、当中間期の業績は大幅な予想超過となる見込となりました。

なお、上記の投資法人が保有する物件を含め、平成18年5月現在における当社グループのアセットマネジメント受託残高は4,635億円に達しております。

上記の結果、連結及び単体ともに、中間期の営業収益、経常利益及び中間純利益が予想を上回る見込みとなったため、中間期の業績予想を修正することいたしました。

3. 通期の業績予想の修正（平成18年1月1日～平成18年12月31日）

(1) 連結

（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	16,200	10,000	5,900
今回修正（B）	22,000	13,300	7,700
増減額（B - A）	5,800	3,300	1,800
増減率（％）	35.8	33.0	30.5

ご参考：前期の実績（平成17年1月1日～平成17年12月31日）

前期の実績（A）	13,958	8,113	4,757
----------	--------	-------	-------

(2) 単体

（単位：百万円）

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回予想（A）	10,900	7,700	4,800
今回修正（B）	15,600	11,100	6,700
増減額（B - A）	4,700	3,400	1,900
増減率（％）	43.1	44.2	39.6

ご参考：前期の実績（平成17年1月1日～平成17年12月31日）

前期の実績（A）	10,018	7,122	4,574
----------	--------	-------	-------

4. 修正の理由

中間期の業績修正の理由に記載の通り、ケネディクス不動産投資法人及び日本ロジスティクスファンド投資法人への自己勘定物件売却益と、これらへ物件を売却した私募ファンドからのインセンティブフィーが期初予想を超過すること等により、通期においても期初の業績予想を超過する見込みとなりました。

他方で、期初においては当下期の売却を想定していた大型商業施設の開発案件の売却が来期に実現する公算が高まったこと等により、期初予想に比べると下期の収益は小さいものとなる見込みであります。また、今後の物件取得等に向けた資金需要に対応すべく、コミットメントラインの追加設定など、負債性資金の機動的な調達を進めるべく準備中であることから、当下期において期初予想を上回る金融費用が計上される見込みであります。

上記の結果、営業収益、経常利益及び当期純利益が予想を上回る見込みとなったため、通期の業績予想を修正することといたしました。中間期の業績予想の超過状況に比べ、増加率は小さいものとなる見込みであります。

以 上